

経済部文化観光局観光課

1 米子市観光協会事業活動に対する助成

米子市の観光振興及び皆生温泉エリアのブランディング向上を図るため、米子市観光協会の事業活動への助成を行うとともに、その実施について協力した。

(1) 重点事業

ア 皆生温泉魅力づくり事業及び誘客事業

- ・皆生温泉海遊ビーチの開設
- ・海浜を活用したアクティビティ拡大事業
- ・皆生温泉魅力UP事業
- ・皆生温泉にぎわい創出事業
- ・皆生温泉エリア経営実行委員会への参画
- ・皆生温泉エリアにおける「安心観光・飲食エリア」創出事業

イ 城下町米子周遊促進事業

- ・米子駅から城下町周辺エリアのレンタサイクル利用等、各テーマのモデルコースの造成

ウ 情報発信パワーアップ事業

- ・全日本空輸株式会社客室乗務員によるSNS（Facebook・Instagram）に特化した当圏域の情報発信を実施
- ・県内外への観光PRイベントへの参画
- ・各種メディア出演

(2) 新規事業

ア 地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業

- ・絶景の城「米子城跡」を核に歴史と文化をテーマに米子彫刻ロードや米子駅前及び城下町界隈の回遊するポタリング（自転車散歩）や天守跡でのプチキャンプ体験プログラムの開設及び周遊モデルコースの造成
- ・レンタサイクルや電動ファットバイクを使用した新サイクリングルートの開発
- ・軽量の携帯テーブル・椅子とコーヒーセット等を貸出し、絶景を体験出来る「天守テラスプラン」の開発
- ・「ダイヤモンド大山」見学及び城下町をポタリングで散策する体験型周遊モデルコースを開発し、県外からの1泊2日のモニターツアーを実施
- ・米子城武者隊の磨き上げとして、甲冑2着を購入
- ・モニターツアーや関係者を集めたワークショップの様子を取材・放送、旅行専門紙で特集記事を掲載

イ 米子城！魅せるプロジェクト事業の実施

- ・ダイヤモンド大山観望会に合わせ、10月に市内で開催される9つのイベント及び飲食店、タクシー代行セット割を集約したポータルページを作成し、情報を発信
- ・ダイヤモンド大山観望会参加者を対象にキッチンカーによる振る舞いを実施

ウ 「BEACH SAUNA in KAIKE」の開催

- ・海・砂浜の通年利用及び海浜施設の新たな活用を視野に実証事業としてサウナイベントを開催

エ 米子市国際観光案内所開設業務委託事業

- ・JR米子駅リニューアルに伴う新観光案内所新設工事（外部建具）の実施
- ・建築デザイン・設計業務の実施

オ とっとり牛骨ラーメンシンポジウムの開催

- ・「とっとり牛骨ラーメンプロジェクト」として、鳥取県の特色ある食文化でもある牛骨ラーメンの全国発信に向けた第一歩として、鳥取県選出の衆議院議員でラーメン文化振興議員連盟会長も務める石破茂氏を招聘し、キックオフ・シンポジウム（基調講演・パネルディスカッション）を開催

(3) 継続事業

- ・ 宣伝対策事業
- ・ 大人達の社会見学の実施（受付・手配）
- ・ 皆生温泉ニューツーリズム創造事業
- ・ まちなか観光推進事業
- ・ 広域連携・観光誘客事業
- ・ 米子ふるさと観光大使関連事業（関係人口の強化事業）
- ・ スポーツ観光推進事業
- ・ 神話・歴史観光推進事業
- ・ 二次交通に関する事業
- ・ 米子桜まつりの開催
- ・ 農と食のフェスタinせいぶ（ネギ来まつり&米子駅まつり）の開催
- ・ 米子城・城下町観光拠点強化事業
- ・ 看板、印刷物関係事業
- ・ 指導育成事業
- ・ 収益事業の推進
- ・ 皆生遊歩道清掃事業
- ・ 観光協会組織の充実
- ・ 米子市国際観光案内所委託運営
- ・ 会議・研修会等（協会主催、共催会議のみ）

◇年間利用状況

宿泊案内	観光案内	交通案内	地理案内	その他	合計
215件	3,136件	1,443件	226件	4,818件	9,838件

2 コンベンションの誘致

本市へのコンベンション誘致を促進するため、(財)とっとりコンベンションビューローに対し、運営費、大会開催支援補助金等の交付を行い、その活動を積極的に支援するとともにその活用を図った。

(大会開催支援補助金交付実績)

件数	参加者数	延宿泊者数	交付額 (米子市負担額)
26件	8,049人	10,491人	11,974,655円 (5,987,327円)

3 観光関連団体との連携

日本観光振興協会、山陰観光連盟、鳥取県観光連盟、山陰インバウンド機構等の観光関連団体との連携を密にし、本市観光振興を図った。

4 郷土芸能の保存、育成

米子がいな太鼓、米子がいな万灯の保存、育成を図った。

5 大山の美化、遭難防止活動等への協力

大山国立公園協会、大山の美化を推進する会、大山遭難防止協会等を通じて、大山の美化、自然保護等と遭難防止活動に協力した。

6 皆生温泉にぎわい創出事業

皆生温泉旅館組合、鳥取県及び米子市で組織する皆生温泉にぎわい創出事業実行委員会において以下の事業を行った。

(1) 地域資源保全事業の推進

足湯の維持管理及びメンテナンス、観光センター周辺の花壇植栽及び看板整備、海岸の美化活動等を実施した。

(2) 地域資源活用事業の推進

海水浴場開設期間の花火の打ち上げ、出張足湯サービス、レンタサイクル利用者に対するPR用チラシ・のぼりの作成等を行った。

(3) 誘客促進・ファンづくり事業

観光案内、タウンマップ、おもてなしパスなどの各種パンフレットの更新、旅館案内をはじめとする地域情報の発信を行うWebサイトのアップデート及び多言語化、信用金庫及びアウトドアメーカーとのタイアッププロモーションの実施、とっとり花回廊との共同案内マップの作成等を行った。

7 皆生みらいの灯り推進事業

皆生温泉エリアならではの海・砂浜・温泉街を灯りのデザインにより一体的な夜間景観へ修景することで、安心安全な歩行者空間に整備するとともに、ナイトタイムエコノミーに資する経済活動を誘因する基盤整備に取り組んだ。皆生海浜公園園路区間の街灯18基を更新、園路松のライトアップ72基を新設した。

8 皆生温泉エリア経営実行委員会における皆生温泉のまちづくりの推進

皆生温泉関係者、地元金融機関、観光団体、建築デザイナーで組織する「皆生温泉エリア経営実行委員会」の事務局として、毎月の実行委員会の運営と以下の事業実施の伴走を行った。

(1) 空き不動産ツアー・お試し活用事業

令和3年度に実施した空き不動産基礎調査に基づき、出店実現可能性のある土地・建物を対象に、活用の担い手とのマッチング活動（ツアー・お試し出店）を実施した。

(2) 皆生温泉エリア魅力向上補助金制度の創設・運用

皆生温泉エリアへの投資促進を目的として、民間事業者の新規事業着手及び旅館等の受け入れ環境整備の支援を実施し、宿泊事業者による皆生みらいの灯りコンセプトに基づく施設照明更新2件、旅館がまちに開く設え改変1件、空き不動産のリノベーション1件を実現することができた。

(3) サイクリングによる地域間連携検討

皆生温泉エリア内の移動性の選択肢を増やすとともに、美保湾の経済圏において皆生温泉と他の地域資源との地域間連携の発展を見据え、電動自転車、チャイルドトレーラーを含む12台を購入し、観光センターのレンタサイクルのラインナップへ追加した。

(4) 駐車場シェアリングサービス登録拡大による日帰り駐車場整備

シェアリングサービス大手のakippa株式会社と連携協定を締結し、地域住民や市民の日常的な来街機会を支えるための環境作りとして、旅館やエリア内事業者が所有する駐車場をシェアするサービスの拡大に取り組んだ。同社と共同でエリア内の事業者を対象としたサービス説明会を2回開催し、予算や維持コストをかけない仕組みで日帰り駐車場を109台確保することができた。

(5) 低未利用地等の活用ルールの見える化の実施

民間主体で皆生温泉エリアの低未利用地で様々な経済活動が生まれる機運を醸成するため、環境整備の

一環として、低未利用地（官・民）の使用方法をまとめたガイドラインを作成した。同ガイドラインは、皆生温泉旅館組合が貸出している「レンタル屋台」を使用して、皆生温泉の様々な場所で出店してみたい人を対象として作られている。

(6) 空間活用実証実験の開催

ア 水一広場（スイッチひろば）の毎月開催

毎月第一水曜日、低未利用地で簡易な飲食提供と滞留空間を設営した空間活用実験を実施し、低未利用地の流動化に係る課題について地権者・建物オーナー、住民、事業者、当委員会メンバーが一堂に会して確認した。また、事業者と地権者のマッチング機会として活用することで、6店舗が新規開業した。官地2か所、民地5か所で開催。

イ まちあるき回遊促進実証実験「うごくまちぐるぐるかいけ」の開催

3月11日及び12日の2日間で実施した。11か所の未利用地を会場として活用し、飲食店等50事業者が出店した。2日間で日帰り客や地域住民4,000人以上が訪れ、地域住民・市内事業者・地権者に向けて、低未利用地（民地、公園）活用による来街目的の創出、滞在時間延長による消費拡大、将来の皆生温泉の在り方を提示することができた。

(7) カイケエリアデザインスクールの実施

皆生温泉のまちづくりに関わる人材の発掘と育成を行うことを趣旨として、エリア内における低未利用地の活用を課題として、企画立案・実践までを一気通貫でおこない、低未利用地の課題を明らかにする「カイケエリアデザインスクール」を開講・運営した。延べ99人の受講生が参加した。

(8) 住民ワークショップの実施

トキ消費トレンドに合致し、旅マエ宿泊先検討者に選ばれるまちとなるために、地域住民にとって居心地がよく、訪れたい空間の要素や活動、観光センターの役割について地域住民と意見交換を行った。皆生の思い出を語るワークショップでは、多世代の地域住民の記憶を共有することで皆生に住まうシビックプライドの醸成と地域住民のまちの在り方検討への参画につなげることができた。出されたアイデアはエリア模型で形にされた。3回開催し延べ59人が参加した。

(9) 情報発信

ア KAIKE PRESS（カイケプレス 紙媒体）の発行

皆生温泉のまちづくりの取組状況を、毎月一回地域住民向けの紙媒体（ニュースレター）として発信した。このニュースレターは、日本海新聞専売所の協力のもと、折り込みチラシとして皆生周辺の2,500世帯に配布した。

イ ポータルサイト、SNSによる発信・ポータルサイト「かいけラボ」の制作・公開

当実行委員会の取り組みやまちづくりの情報をリアルタイムで発信した。「皆生温泉で何かやってみよう」と思わせるユニークな記事を多数掲載しており、未来のまちづくりプレイヤーの誘引を狙うとともに、紙媒体であるカイケプレスと連動しながら全127記事を投稿した。紙媒体のカイケプレスのアーカイブも閲覧可能。

・ SNS（Facebook, Instagram, Twitter）の運用

ポータルサイト「かいけラボ」と連動し、最新情報を投稿している。

9 米子市にきないや！宿泊施設等PR事業

新型コロナウイルス感染症により宿泊客数減少等の影響を受けた市内宿泊施設の宿泊客数回復を目的とし、米子市への誘客促進を図る観光特集記事を多様なメディア媒体で掲載し、露出強化を行った。

- ・掲載媒体：じゃらん、楽天トラベル、JR京阪神車内中吊りポスター、中国新聞、山陽新聞
週間大阪日日新聞、日本海新聞

10 大山山麓・日野川流域観光推進協議会における 広域観光の推進

令和4年度は、3か年の地方創生推進交付金計画《「観光から関係人口・企業移転」までを「標高0mから大山頂上」で切れ目なく受け入れ、来訪者の幸せ実現をめざす大山・日野川圏域》の2年目として、本格的に以下の取組を展開した。

※構成自治体

米子市、境港市、南部町、伯耆町、日吉津村、大山町、江府町、日野町、日南町、倉吉市、琴浦町、鳥取県西部総合事務所

(1) 関係人口の滞在促進について広域連携によりワンストップで対応

一般観光客から関係人口までを含む幅広い滞在促進について、圏域での自然体験やアクティビティ体験を活用して進めるとともに、「サイクリング」や「刀剣たたら」を切り口とした他圏域と連携しての滞在時間延長に取り組んだ。

(2) 関係人口の創出・拡大および地域の収益向上に向けた取組

《関係人口の創出・拡大》について、研修会を開催するとともに、圏域で「関係人口×観光×収益向上」の先駆モデルを確立し、圏域全体への普及展開を目指すため、民間事業者のモデル取組の支援を実施した。

(3) 民間参画を念頭に置いた組織のあり方検討

現在の地方創生推進交付金計画が終了する令和5年度以降の組織のあり方について、構成団体の首長や担当課などと具体的な検討を進め、年度内に民間参画による改組を決定した。次年度以降も引き続き、検討を進めていくこととしている。

(4) 地方創生推進交付金対象外事業

「大山山麓の謎解き宝探し」や「つながるマルシェ」、「酒蔵ツーリズム事業」など継続事業において地域への定着を図り、民間事業者と連携した取り組みを推進した。

11 米子市、境港市、安来市、松江市、出雲市の5市との連携

平成31年2月に設立承認された「中海・宍道湖・大山圏域観光局」と連携し、圏域インバウンドプロモーション、国内広域観光プロモーション、人口集積地（発地型）誘客プロモーション事業、圏域観光再生支援プログラム、圏域周遊促進及び受入環境充実などの事業を実施し、情報発信を行い、認知度向上と観光誘客を図った。

12 中海・錦海かわまちづくり計画の推進

国・県・市の3者協調事業である「中海・錦海かわまちづくり計画」について、工事間調整協議を進めるとともに、市道改良用地の買収を実施した。

1.3 米子市ロゴマーク・イメージキャラクターの活用

(1) イベント等への貸出

ヨネギーズの着ぐるみを各種イベントに13回貸し出した。

(2) 印刷物・キャラクターグッズとしての活用

米子市が発行する各種印刷物や職員の名刺・名札に活用されているほか、市内外事業者・市民などに合計38回活用された。

1.4 米子市観光センターの管理運営業務

(1) 山陰観光の拠点として、昭和58年4月から利用開始。平成18年度から指定管理者制度を導入し、引き続き皆生温泉旅館組合に管理運営業務を委託している。皆生温泉の観光案内、旅館のあつ旋、各種集会室の使用許可、バス発着場など観光客及び地域住民の幅広い利用を図った。

(2) 年間利用状況（テナント、広告看板、バス停利用を除く）

ア 観光案内 9,363件、21,985人

イ 施設利用

区分	多目的ホール	会議室	料理研修室	和室	第1展示ホール	第2展示ホール	第3展示ホール	合計
件数	292件	448件	25件	133件	365件	48件	241件	1,552件
人員	7,139人	5,870人	301人	801人	0人	490人	1,591人	16,331人

ウ 米子市観光センター指定管理委託先 皆生温泉旅館組合

指定管理委託料 3,518,000円

1.5 米子コンベンションセンター管理運営業務

(1) 米子コンベンションセンター（米子国際会議場を含む）を鳥取県と米子市が共同で管理運営を行い、利用者への応接や利便性の向上に努めた。

(2) 米子国際会議場指定管理委託先 公益財団法人とっとりコンベンションビューロー

指定管理委託料 67,096,673円

[米子国際会議場利用状況]

大会典	講演会	会議・研修会	その他会議	展示会 見本市	音楽 芸能	その他	計
6件	15件	52件	20件	4件	2件	2件	101件

利用日数 174日 稼働率 56.3%